

工務・電気協議会 若手組合員交流会を開催 !!

3月16日、17日、仙台市秋保温泉郷にて東日本工務と電気協議会の若手交流会を開催しました。初めての試みとして、設備系の若手組合員の親睦と交流を深めました。

交流会は、国労仙台地本会議室にて13時に清水工務協事務長の司会で開会し、後藤電協議長を座長に選出、出羽工務協・後藤電協議長の挨拶、来賓として東日本本部武田書記長、仙台地本丸谷書記長から挨拶を頂きました。続いて情勢報告を武田書記長より受けて、討論にはいりました。二日間を通し19名が参加しました。

【出羽工務協議長あいさつ】

設備同士の職協でありながら交流が無かった、若手を中心に意見交流が出来ればという事で企画をした。工務協は3名の若手がいます、先進的な電気の皆さんに学んで行きたい。

【後藤電協議長あいさつ】

本体の状況が掴めなくなっている。工務と交流し問題の洗い出しも必要である。今後も引き続き交流して行きたい。

【自己紹介・職場報告・討論】



宮崎（電協）昨年10月からコアなしスーパーフレックスが導入された。職場は6名、土日は2名ずつ出勤。2月に所長から「超勤が多い何とかしろ」と言われた。「フレックスで早く帰れない保安要員があるから」といったら、1週間後、保安要員の勤務時間が変更になった。

飯田（電協）30代40代の中堅社員が、現場を回している。職場訪問に来た幹部に、退職する方があるのは心苦しい、社員が働き

続けたい施策を進めてもらいたいと伝えた、返答は賃金だけでなくやりがいや責任感が大事だよと言われた。認識の乖離がある。

石崎（電協）障害は、直轄対応のため片道3時間かけてしゃ断管折損を行う。会社は、MCの都合で人数を集めれば技術力向上になる、マンパワーも増えるという。毎年若手が辞めていく。

飯田（工務協）4月からフレックスが導入される。グループ作業の為フレックスでは困る。組織の見直しが6月にある。派出の廃止で2時間半の足ロスとなる。

【フレックスタイム制について】

賃金が少なくなるという心配は、トータルで超勤になる形が増えることが多い。
・導入時は超勤が増えた。
・グループで現場に行く際、主任や主務がこの時間から仕事をしたいと声をかける。（勤務を何時に来いと言えない）
・スーパーフレックス、当番、警備、夜勤フレックスの4パターンがある。宿直がある所はフレックスの適用外。

【担務変更について】
保線は在勤地指定が無くなる。
・電気のMCは在勤地指定がされる。MC間の助勤はやらないと決まっている。現場も分らない所へ行っても出来ないから。
・保線は、現場を知らなくても何でもありになってしまふ。

【組織状況について】

若手の愚痴や不平不満は聞ける。国労加入まではいかない。組合のことを聞いてくる人は多い。加入までは結びついていないがアピールして行きたい。組合掲示板が無くなり、国労の活動が周りに伝わらない。

世代交代の課題は、ここにいる

メンバーでやって行くしかない。団交では、交渉技術や全国の情報が集められないので不安がある。

【議長集約】

保線では、フレックスが4月から導入されることで電協の皆さんからアドバイス頂いた。各現場で会社に説明を求めて行きたい。若手から参考になる意見を頂いた。エルダーの人達もJR職場に行きたがらない状況もあるが、若手と話し込みをして行きたい。短い時間の中で、中身のある意見交換が出来た。機会があれば仲間を増やしてまた交流して行きたい。

ホテルに移動し秋保温泉で日頃の疲れを取り、懇親会では加藤電協事務長の進行で、初対面の違和感もなく、それぞれ会社への不満や職場の報告等がありました。あまりの長時間の報告にストップが係る等、終止笑いの絶えない親睦と交流を深めることができました。



交流会を受け入れて頂いた、仙台地本の皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。